

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

スポーツ・文化コミッションを主軸とした「大津町魅力発信」地域経済活性化プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

熊本県菊池郡大津町

3 地域再生計画の区域

熊本県菊池郡大津町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

(駅周辺のPRの必要性・課題)

- 大津町は、熊本市と阿蘇地域の間地点に位置し、1日平均2,600人の方がJR肥後大津駅を利用しているが、通勤や通学による利用が多い状況にある(駅南口内に設置している大津町ビジターセンター(観光案内所)では、平成30年度は年間6,291人の観光客等が利用。)。観光やスポーツ大会関係で町外からの来訪者があっても、町内での滞在時間を延ばすような着地型観光商品がなく、町内での消費額が少ない。
- 大津町ビジターセンターを利用する外国人旅行者は、年間利用者6,291人中4,739人となっており、年々増加傾向にあるが、同センターの職員の聞き取りからそのほとんどが大津町を経由して阿蘇地方や宮崎県高千穂方面に向かっており、町内での滞在時間が短い。

(観光プラットフォームの必要性・課題)

- 肥後おおづ観光協会が地域の魅力発信のために平成25年から活動をしているが、観光資源の乏しさや1カ所での単発のイベント実施が多く、観光客に対しての観光プラットフォームとしての機能を十分に果たせていないという課題がある。

(観光産業振興における課題)

- 大津町には知名度のある観光名所が存在しないため、これまで観光をメインとした誘客ができていない。また、スポーツ大会関連による町外からの来客は年間81,667人(平成30年度)となっているが、宿泊者は5,378人と全体の7%にとどまっている。
- サッカーの名門「熊本県立大津高等学校」のOBが指導者を務める子ども向けのサッカークラブや、全国的に珍しい居合の師範のいる道場、全国レベルの選手を輩出している剣道場といった各種スポーツ団体が町内で活躍しているが、町外にはそのイメージはなく、誘客につながっていない。また、活動拠点となる大型スポーツ施設や多くの宿泊施設も有しているが、各団体・施設に誘客の意識が薄く、また、団体等のつながりも弱いため合宿誘致や観光客誘致につながっていない。
- 一級河川である「白川」や加藤清正が造った「上井手・下井手(農業かんがい施設、2018年に世界かんがい施設遺産に認定)」、また、町の伝統工芸品である「梅の造花」といった町民が誇る自然、歴史文化を多数有しているが、知名度が低く観光資源としての活用ができていない。
- 熊本地震からの復興シンボルとなっている人気漫画「ONE PIECE(ワンピース)」の仲間「剣士ゾロ」の等身大立像(剣士ゾロ像)がJR肥後大津駅の近くの大津中央公園に設置される予定であり、誘客の起爆剤としてPRする必要がある。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

(大津町の状況)

- 大津町は、阿蘇くまもと空港やJR豊肥本線、国道57号線などの交通結節点を有しており、産業振興に重要な地理的優位性を活かして様々な企業が進出するなど、研究産業拠点や流通拠点等を形成している。また、熊本都市圏東部に位置する立地性を活かし、熊本都市圏のベッドタウン、阿蘇の玄関口である緑豊かな田園地帯として移住人口も増加している。
- 全国大会常連校である大津高校をはじめとしたサッカーや剣道といったスポ

ーツ振興が盛んに行われている。また、首都圏から移動時間2時間以内、空港から車で15分という立地と、天然芝のグラウンド、メイン、サブアリーナ、トレーニングルームを総合的に兼ね備えた大津町運動公園などの充実した施設がある。特に武道については古い歴史を持つ大津町体育協会をはじめとした各競技団体がある。中でも、剣道においては65年の歴史ある活動を通して人材育成がなされており、大津町剣道連盟には、小学生から高齢者まで150名の町民が所属しており有名な指導者や有段者が数多く在籍し、「スポーツを卒業しない環境」が整っている。また、剣道の他にも、柔道少年クラブや空手教室の活動が活発であり、こういった町の特徴をふまえ、スポーツを活かした町づくりを推進している。そのような中、スポーツを観光資源の一つとして捉えることの必要性について民間事業者から声が上がリ、町内でもスポーツ文化コミッションが設立された。観光資源というものが不足している大津町において、コト消費という新たな取り組みをコミッション中心に一元化して売り込みを行い、スポーツ大会等の誘致、観光商品の開発を行う。

- 平成28年くまもと地震の影響により、観光客数が震災前の2,011,074人（平成27年）から震災直後は1,601,131人（平成29年）に減少したが、平成30年度には徐々に回復してきている。観光客の回復や、復興シンボルとなっている人気漫画「ONE PIECE（ワンピース）」の仲間「剣士ゾロ」の等身大立像建設による誘客への期待も相まって、駅周辺の商店街を中心に更なる地域活性化に向けて機運が高まりつつある。

（地方創生として目指す将来像）

- 阿蘇くまもと空港から一番近いJR駅である肥後大津駅を地域の魅力と共にPRすることで、空港からの誘客等を強力に推進し、駅周辺をはじめ、町内の経済活性化につなげる。
- スポーツのまちづくりや町の地域資源を生かした着地型観光商品など、観光産業とスポーツ文化事業との連携による新しいコンテンツ創出に、官民連携のもと取り組むことにより、交流人口の更なる増加につなげるとともに、地域活性化を図る。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2020年度増加分 1年目	2021年度増加分 2年目	2022年度増加分 3年目	K P I 増加分 の累計
宿泊客数（国内、外国人）（人）	293,025	2,930	2,959	2,989	8,878
開発したツアーリズム参加者数（人）	0	75	112	142	329
大会、合宿誘致件数（件）	0	1	1	2	4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

スポーツ・文化コミッションを主軸とした「大津町魅力発信」地域経済活性化プロジェクト

③ 事業の内容

1. スポーツ・文化コミッションの体制整備

(1) 着地型観光商品の開発

日本らしく大津町で盛んな武道や文化、また、魅力ある自然を活かし

て統一感のある着地型観光商品の開発や運営を行う。ツーリズムは次のとおり。

① 武道ツーリズム（剣道・弓道・居合）

「礼儀作法」「和の心」を感じてもらうため、実際に道義を着て体験してもらうもの（主にインバウンド向け）

② 文化ツーリズム（梅の造花・茶道など）

「礼儀作法」「大津町の文化」「和の心」を感じてもらうため、梅の造花造りの体験、茶道体験を行うもの（主にインバウンド向け）

③ アウトドアツーリズム（上井手・下井手等を活用した川くんだり・サイクリングなど）

世界かんがい施設遺産である上井手・下井手用水から地下水涵養の重要性と農業の重要性を学び、自然を感じられるもの

(2) 観光プラットフォームの整備

個々で活動している各種スポーツ団体や文化団体等を一元化するスポーツ文化に関する観光プラットフォームを整備し、自立を見据えた管理運営の形を作っていく。

① 肥後大津スポーツ文化コミッションの運営管理費（新規雇用人件費、旅費、需要費等）

2. 観光誘客促進

(1) 受入体制整備・チラシ、ポスターなどの作成・配布

・肥後大津駅を起点とした町内を周遊するサイクリングロードや観光スポットを示した案内板などを設置して、観光客受け入れ体制の整備を行う。

① チラシポスターの作成

② スポーツ文化コミッションのHP作成

③ SNS等による情報発信

(2) スポーツ大会等誘致のためのPR活動

- ・大津町の強み（首都圏からの利便性の良さや宿泊施設の多さ等）を地域外の企業や大学などに幅広くPRし、スポーツ大会などを誘致、交流人口の拡大を図るとともに地域経済の活性化を図る。
- ・誘致ができた大会については、大会関係者やその家族に大会の時間以外の使い方の新たな提案として、上記（1）で開発するツーリズムのPRも併せて行い、町内の周遊につなげる。

(3) 駅周辺活性化のためのワークショップ、事業実施など

- ・人気漫画「ONE PIECE（ワンピース）」の仲間「剣士ゾロ」の等身大立像が2021年度設置予定の大津中央公園がある。キャラクターの和のテイストとキャラクターが設置される本来の意味である熊本地震が起きた4月に花をつける桜を復興のシンボルとして位置づけると同時にJR肥後大津駅から剣士ゾロ像が設置される大津中央公園までの道を明るくするような、おもてなし事業（地元住民を巻き込んだ桜やつつじの植栽等）のワークショップ等を実施し、交流人口の拡大を図る。

3. 地域を生かしたイベント開発及びPR等

(1) イベント開発及びPR等

- ・2021年度に予定する「剣士ゾロ」の等身大立像設置とあわせて大津町独自のイベントを実施し、町内外から「ONE PIECE（ワンピース）」ファンを取り込むことで、新たな交流人口の増加を図り、地域活性化につなげる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

事業主体である肥後大津スポーツ文化コミッションに、新たに創出された素材を元に販売、集客、祭りの実施をしてもらい、地域の活性化、

集客、宿泊につなげ財源確保に取り組み、民間主導の持続可能なまちづくりをめざし、企業等へ寄付金を募る。

【官民協働】

「スポーツの町」のイメージ戦略を図るため、民間事業者がスポーツツーリズム行う。町は、イベント関連の事業について事務局としての補助、調整などを行い民間事業者の事業化を側面からサポートしていく。

【地域間連携】

大空港構想Next Stage（熊本都市圏東部地域グランドデザイン）に則り、熊本県東部地域における震災からの更なる飛躍を目指していく。大津町は空港の周辺地域としてJR肥後大津駅（愛称：阿蘇くまもと空港駅）と無料の空港ライナーを要するため、熊本の空の玄関口から最寄りの観光拠点としての整備を進める。

【政策間連携】

複数の政策を関連させ、一体的に取り組むことにより、産業の振興や産業人材の育成、観光の振興、安全安心なまちづくりなど、それぞれの事業効果が高まり、熊本都市圏東部地域をはじめとした地域に創造的な地方創生の実現を目指す。

- ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））
4-2の【数値目標】に同じ。
- ⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

毎年度8月に、重要業績指標（KPI）の達成度の評価について、内部評価のうえ、外部検証組織により実施。必要に応じて事業の見直しを行う。

【外部組織の参画者】

企業・経済団体3名、金融機関2名、教育関係1名、行政関係1名、学識経験者1名、女性活躍団体1名、地元代表1名、公募委員2名

【検証結果の公表の方法】

外部有識者会議での検証を踏まえ、大津町のホームページで公表。

- ⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 23,849千円

⑧ 事業実施期間

2020年4月1日から2023年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

該当なし。

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2023年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。